

## 第4章 楽しく魅力ある空間とするための検討

これまでは、交通動線のあり方や幅員構成、安全対策など、道路機能を中心に検討してきました。

本項では、歩くことが楽しく、訪れた人がもう一度行ってみたいと感じる公園坂通りとしていくために不可欠な、楽しく魅力ある空間づくりについて検討します。

### 4 - 1 電柱と電線類について

私たちが普段何気なく目にしている電柱と電線類は、日常生活に欠かすことのできない電気、電話やケーブルテレビ、インターネットなどの通信手段を支えています。

しかし、国において景観法の制定や観光立国の取り組みが進められ、あわせて欧米のまちなみの素晴らしさがお手本として紹介されるようになるにつれ、電柱と電線類のない景観を活かしたまちづくりが全国で行われています。

公園坂通りでも、電柱と電線類は景観を阻害しており、また、安全な歩行の妨げになっている箇所もあります。

公園坂通りを魅力ある空間とするために、電柱と電線類のあり方について検討が必要です。

#### (1) 電線類地中化

電線類地中化とは、道路に設置されている電柱を排除し、架空電線類を地下に埋設することをいいます。現在では、あまり幅の広くない道路でも地中化が可能な技術があり、国土交通省でも柱状型機器による整備を推進しています。幅員の狭い公園坂通りでも、上下水道やガス管などへの影響や整備費の負担という課題はありますが、地中化することは可能です。

なお、電線類を地中化することは、道路や私有地内で長期間の調査や工事が必要となる、新たな建物を建てる場合に個人の負担がかさむ、地中化の手法によっては、引き込み架空線を完全になくすことはできない、などのさまざまな課題があります。

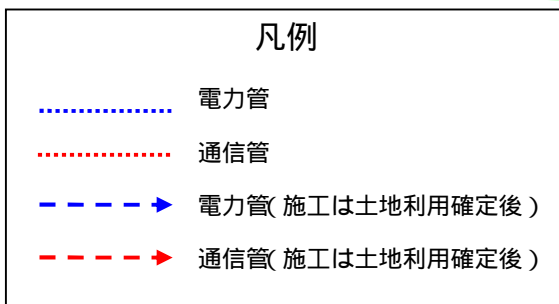
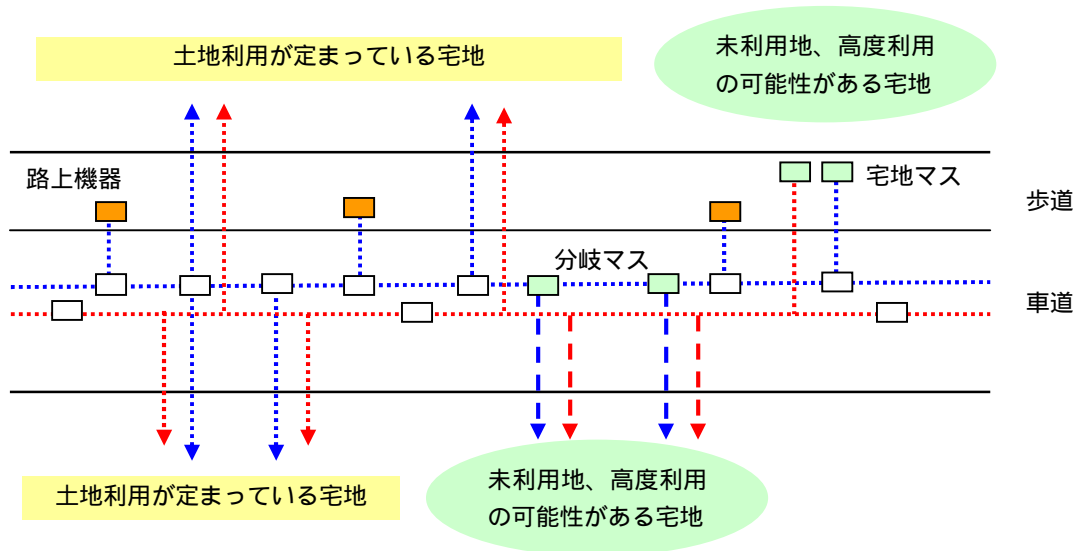
公園坂通りの車道には、既に東(緑1丁目)側から順に、上水、汚水、雨水、ガスの管が埋設されています。歩道にも管が埋設されており、電線類を地中化する空間については、他の管を敷設換えしないことを最優先すると、車道となります。

本来は東西の歩道に埋設すべきですが、道路の幅員8mが基本であり、両側に十分な幅員の歩道を確保できないことから、やむを得ない状況です。車道に埋設する場合は、分岐マス、接続マス等を車道に対応する強度にする必要があります。

また、地中化後の工事は、交通への影響やコストも大きくなります。

このため、土地利用が定まっていない宅地のために、あらかじめ、分岐マスや宅地マス(歩道に設置)を用意しておくことも考えられます。

a. 電線類地中化工事の手法



なお、公園坂通りにおいて、電線類を車道の地下に設けた管へ移設するために、1メートルあたり概ね30万円の費用がかかります。

## 電線共同溝 整備イメージ

**【柱状型機器による整備】**

歩道が狭く地上機器(トランス等)の設置が困難な箇所については、柱状型機器を設置します。

← 柱状型トランス

柱状型機器の適用(歩道狭小箇所)

(出典：国土交通省 無電柱化の推進)

b. 他市の事例



整備前



整備後

柱状型機器

事例 : 日野市  
 柱状型機器で整備しています。  
 道路幅員 7.8 m  
 道路延長 120 m



整備前



整備後

事例 : 小平市  
 柱状型機器で整備しています。  
 道路幅員 5.4 m  
 道路延長 120 m



事例 : 川越市  
 沿道の駐車場脇にボックス型機器を設置しています。  
 (出典 : 国土交通省ホームページ)

## (2) 裏配線

電線類をなくしたい通りの裏通りなどに電柱を配置し、通り沿いの宅地への電線類の引き込みを裏通りから行う方法です。通り沿いの全ての宅地が裏通りにも接していれば費用負担をあまり気にせずに導入できる方法です。

公園坂通り沿いの宅地は、電柱を設置できる裏通りがないことから、裏配線は難しいと考えます。

## (3) 軒下配線

電線類をなくしたい通りの脇道に電柱を配置し、脇道から脇道までの間は電線類を建物の軒下または軒先を伝わらせて街区の中に電柱をなくし、道路上に架空線を見せない方法です。

伝統的建造物群保存地区など、建物の軒の高さや通りに面した壁面の位置がそろっていて、かつ建物同士が接近している場合には費用負担をあまり気にせずに導入できる方法です。

公園坂通り沿いの建物は形状がまちまちで、通りに面した駐車場や空き地など建物が無いところも少なくないため、軒下配線は難しいと考えます。



(出典：国土交通省 無電柱化の推進)

## (4) できるだけ電柱や電線類を目立たせないこと

電柱と電線類をなくす3つの方法のほかに、できるだけ電柱や電線類を目立たなくする方法の検討も必要です。

裏配線と軒下配線については、街区単位での導入が可能なことから、公園坂通りの一部区間でも、電柱や電線類のない景観が可能となります。

また、電線類の管理者と連携して、道路を横断する架空線をなくすことや、電柱を通り沿いの宅地内に移設することなどの工夫で、公園坂通りの景観が大きく変わります。